

【事業計画名】

これから訪れるセルフメディケーション時代に向けた 調剤薬局のシステム構築と医療体制崩壊を防ぐシステム構築

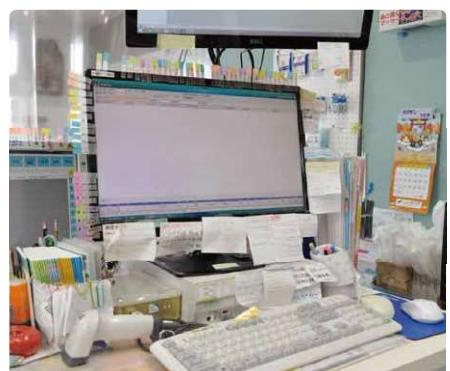
背景・目的

会計で患者さんを待たせてしまう状況をなんとかしたい

当社は小児科、耳鼻科、整形外科のクリニックに隣接した調剤薬局を2店舗展開しており、乳幼児や高齢者が安心して生活できるように、薬のことだけでなく、当該疾患に関わる生活上の指導にも力を入れています。

これまで、患者さんの待ち時間短縮のために自動分包機など機器の導入

を積極的に行ってきましたが、従来のレセプトコンピュータはデータをシステムに連動できない仕様であったことから待ち時間の短縮が難しく、厚生労働省が推進するセルフメディケーション※の推進もままならないのが現状でした。



※セルフメディケーションとは、専門家の適切なアドバイスのもと、身体の軽微な不調や症状を生活者自ら手当てすることを指す。

実施内容

データ管理できるシステムの導入で効率化を図る

レセプトコンピュータ、自動会計システムを導入し、患者さんの待ち時間を短縮することで、患者さんが薬剤師と対面して病気・薬への不安を取り除く時間の確保ができる会計システムの構築を目指しました。

レセプトコンピュータは、病院から

発行された処方箋を入力し請求業務を行うもので、患者さんの情報を管理でき、すでに導入済みの機器と連動することでデータの一元管理することができます。

また、自動会計システムとも連動させて、レセプトコンピュータで確定し

た請求情報を取り込むことで会計業務までをスムーズに行うことができ、患者さん自身が会計することができます。



事業成果

薬剤師は患者さんの対応に専念、会計もスムーズに

レセプトコンピュータおよび自動会計システムを導入し、それぞれの機器を連動させたことで、患者さんのデータを一元管理するシステムが構築できました。最も変化したのは事務員の負担軽減です。これまで紙に印刷された処方箋をレセプトコンピュータに入力する作業、紙に印刷する作業、その紙に書かれた金額をまたレジで手打ちする作業と必要でしたが、導入後

はレセプトコンピュータからすべてのデータが引き出せるようになり、会計までの手続きが、一気に時間短縮されました。自動会計システムによってお釣りの渡し間違いもなくなり、レジ閉めの作業時間も短縮され業務も効率化できています。



ココがポイント

新人でもレジに立てる！

従来だと会計や保険について理解している社員でないとレジを担当することができなかったのが、レセプトコンピュータと自動会計システムを導入したことで、**経験がない新人でも初日からレジに立ち、スムーズにお金のやりとりができるようになりました。**

**システム導入で
効率アップ**



今後の展望

セルフメディケーションできる設備を整え、地域のヘルスケア拠点へ

従来の懸念事項だった待ち時間の短縮は、レセプトコンピュータと自動会計システムによるセルフレジの導入によって実現できています。自動会計システムの導入については試行錯誤を続けた結果、患者さんに高齢者が多いこともあり、現在はレジの担当者がついて対応していますが、八戸市の薬局のなかで導入している薬局は少なく、差別化ができています。

また、薬剤師は薬剤処方の業務に専念し、それぞれが役割を分担する業務分担の体制が出来ました。薬剤師は処方箋による投薬だけではなく、検査結果によるアドバイスもスムーズにできるようになり、会計で待つ時間を投薬指導の時間に充てることが可能になりました。患者さんと向き合う時間が増え、病気や薬に対する不安を取り除く時間の確保ができます。

今後は、八戸市の健康サポート薬局として、セルフメディケーションの実現を考えています。薬局内で検体検査キット（血液を採取し、血糖値やヘモグロビン値を検査）を導入するなど、病院へ行かなくても薬局で気軽に検査できる体制を整え、ヘルスケア拠点として地域の医療・健康を守っていきます。

有限会社 本田医薬情報センター

代表取締役 本田 尚徳 ◎創業 平成11年3月 ◎資本金 500万円 ◎従業員 13名

T031-0004 八戸市南類家2-17-23 類家メディカル調剤薬局
TEL.0178-20-9911 FAX.0178-20-9910
URL:<https://www.hondamic.co.jp/>





【事業計画名】

高効率圧縮梱包機の導入による生産能力向上と国内・海外市場の拡大

背景・目的

古紙回収量が年々増加 処理能力に課題

当社は、段ボール、新聞、雑誌、構造紙などの古紙を回収後、圧縮・結束・梱包し、製紙原料として製紙会社や商社へ出荷しています。

八戸市では、事業系一般廃棄物のうち「資源となる紙」11品目について古紙取扱業者への搬入を促す通達が発出されています。また、大手ス

パー・マーケットでは集客効果が見込める古紙リサイクルポイント事業を平成24年から実施しており、店舗等で収集された古紙も当社に持ち込まれるようになったことから、古紙の回収量は年々増加していました。

こうした背景のもと、当社では東北地方で唯一の大型圧縮梱包機3基を

有していましたが、年々増加する古紙の大量搬入に伴い、処理能力拡大が課題となっていました。



実施内容

大型圧縮梱包機の導入で作業効率UP

今後の更なる古紙の取扱量の増加に対応するため、古紙を圧縮梱包する最新型のオートマチック大型圧縮梱包機を導入し、生産性、品質の向上によるコスト削減および作業効率の改善を図りました。機器の導入にあたっては、2012年式オートマチックベー

ラー1基を導入しました。ほかにある2基と合わせて3基、古紙の種類ごとに使い分けることにより、さらに効率アップを図っています。



事業成果

「早くて重い」ことが、コストや人員削減・時間短縮につながる

今回の機器の導入により、1時間あたりの処理能力が約6,000kgから約12,000kgへと増加し、従来の機器の約2倍もの処理体制を構築することができました。

また、従来の機器よりも圧縮の馬力が強く、より強力に圧縮されるため、製品1本あたりの重量は従来の約800～900kgから約1,150kgに増加して、生産性の向上が図られました。

製品重量の増加に伴い、梱包用番線(針金)の使用量も減少したので、コストの削減にもつながります。

これまで手動で行っていたため、機器に人員を配置する必要がありました。今回の機器の導入により、結束工程が自動化されたことで、人員をほかの工程に従事させることができ、仕損じの発生も減少したため、作業効率が大幅に改善されました。



ココがポイント

作業の効率化が地域のごみ減量に直結！

生産性と作業効率の向上によって、国や市が掲げている「雑がみ類・その他の紙」など、

時間がかかるためにそれまで受け入れできなかった品目も受け入れ、処理できるようになりました。この受け入れが地域のごみの減量化にもつながっています。



今後の展望

まだまだリサイクルできるものがある！幅を広げてリサイクル推進

当社では、平成25年度の本事業を皮切りに約5年間で総額約4億円の設備投資をして、地域のリサイクル率向上に努めてきました。

今後は、デジタルデバイスの普及によって、新聞や雑誌などの紙媒体が減っていくことが考えられます。しかし現在も青森県は全国の中でごみ全体の量は多く、可燃ごみを燃やすときに排出されるCO₂の排気量が多いのが現状です。

これまで以上にリサイクルが求められていくなかで、設備投資をすることで作業の効率化が実現してきたので、今まで手間がかかってやりきれなかったプラスチックごみや「雑がみ類(段ボール、新聞、雑誌、模造紙以外の資源化が可能な紙類等)」のリサイクルについては、今後行政に提案できることがあると考えています。例えば紙コップなど、紙に加工がされているようなものは「雑がみ類」に含まれます。こう

いうものは、ほかの古紙よりも溶けにくいため、ほかの古紙と混ぜてリサイクルすることはできませんが、紙コップだけをたくさん回収することで、リサイクルすることができるようになります。

リサイクルは、正しく分別してもらって初めてリサイクルできる状態になります。社会全体でリサイクルを推進することに、今後も貢献したいと考えています。



北日本産業株式会社

代表取締役 渡辺 宏 ◎創業 昭和33年 ◎資本金 1,100万円 ◎従業員 26名

〒031-0071 八戸市沼館1丁目7番35号
TEL.0178-22-4655 FAX.0178-24-2294
E-mail:north-jap@cerely.ocn.ne.jp



【事業計画名】

市場ニーズに即した商品力強化を目的とする しめ鯖真空包装機の導入

背景・目的

需要拡大に応える増産体制の確立が求められる

当社は、全国有数の水揚量を誇る八戸漁港のすぐ近くで水産加工業を営んでいます。近年、地場原料であるサバを使用したしめ鯖商品の開発に注力してきました。

当社におけるしめ鯖商品の出荷数量は年々伸張しています。2012年以降は年間650トンを超える出荷量で、

国内しめ鯖市場における12~13%のシェアに相当しており、海外市場の開拓も見据えた需要が今後一層高まると考えられます。

これに対し、既存設備による生産能力では供給対応が限界を迎えており、新規市場獲得を視野に入れた増産体制の確立と、商品供給力の向上も求め

られている状況です。



実施内容

真空包装機の導入で包装効率の強化を図る

しめ鯖商品の供給能力およびコスト競争力の強化を図るため、しめ鯖深絞型自動真空包装機を1機導入しました。この真空包装機はしめ鯖専用の機械で、鯖を下ろして半身にした状態にぴったり収まるサイズで真空包装できる機械です。しめ鯖専用の機械なの

で、真空包装する際には見た目も美しく、短時間での包装が可能です。

事業成果

真空包装で見た目も美しく商品優位性が向上

真空包装機を導入したことにより、1日5時間機械を稼働させた場合、約8,000パックの真空包装が可能になりました。真空包装にすることで耐冷凍性が保たれ、冷凍下においても鮮度が維持されます。脂の乗ったサバはあぶら焼けしやすいのですが、真空包装によって見た目も美しく、しっかりと密閉されることで、あぶら焼けせずに見た目や品質についても高い評価を得

て、商品優位性が向上しています。

しめ鯖は、真空包装するまでに最低3日は掛かります。水揚げされた鮮魚の鯖は、しめ鯖用に半身に捌かれ、形を整える作業を行います。この整形作業に5~6時間掛かり、その後しめ鯖にするために塩水や調味を染みこませる作業と続いて、ようやく真空包装されます。整形作業には時間も手間も掛かりますが、真空包装機によってその

後の包装効率が上がり、作業時間の短縮が可能になりました。



ココがポイント

繁忙期には1か月16万パックものしめ鯖を製造！

鯖が水揚げされる旬の時期は12月で、この時期に水揚げされたサバを加工し、冷凍して1年分ストックしておく必要があります。長期保存に対応するためにも欠かせない**真空包装は、繁忙期には1か月でおよそ16万パックも製造し、専用の冷蔵庫で保管**されています。



今後の展望

しめ鯖の海外輸出にも真空包装の強みを活かす

2011年の東日本大震災以降、しめ鯖市場は供給元を集約化する傾向にあり、この流れは今後も加速するものと考えられます。全体市場としては微増または横ばい傾向ですが、供給対応力の向上、コスト競争力の強化等の施策により、既存ユーザーとの信頼性の強化を図ることで、既存市場における当社のシェアアップを目指しています。

商社を通して海外への輸出にも力を入れており、アメリカ、カナダ、東南アジアなどのスーパー・マーケットですでに販売されています。現在はしめ鯖を好んで食べる人が購入している状態ですが、今後はしめ鯖の認知度を高めて固定客を増やしたいと思っています。海外へは真空包装の冷凍状態で輸送され、船便で輸送料金を抑えつつ、遠方に輸出できるという強みも活

かしています。

また、八戸商工会議所が推進する地域ブランド鯖「八戸前沖さば」を積極的に活用した、八戸ならではの商品を押し出すことで、特産品市場の獲得を狙います。「八戸前沖さば」ブランドの全国的な露出拡大に貢献し、ブランドの更なる発展を目指します。

武輪水産株式会社

代表取締役社長 武輪 俊彦

◎創業 昭和23年1月 ◎資本金 9800万円 ◎従業員 162名

Tel.031-0841 八戸市大字鮫町字下手代森32-1

TEL.0178-33-0121 FAX.0178-33-8561

URL:<http://www.takewa.co.jp/>





【事業計画名】

スラッジ水(生コン汚泥水)完全再利用、 コスト削減計画

背景・目的

スラッジの産業廃棄物処理費用を削減して、環境にやさしい生コン会社へ

当社は、工場で練り混ぜをしてから打設現場へ運送するレディミクストコンクリート(生コンクリート)の製造・販売を行っています。

当社の旧プラントは昭和63年に設置して以降27年が経過しており、製造設備の経年劣化による故障や鉄板の腐食、セメントサイロ内部の一部固形

化によるセメント詰まりの故障が多くなっていました。また当社は平成19年から産業廃棄物処理施設として稼動していますが、平成24年度における工場内の残コン処理やミキサー車の洗浄によって発生するスラッジ(汚泥)の産業廃棄物処理費は244万円にも上っていたことから、毎年大きな負担

となっていました。



実施内容

脱水処理施設の改造と水槽隔壁の増設とともに、プラント新設

プラントを新設し、プラント内の洗浄やミキサー車の洗浄によって発生したスラッジ水^{*1}の濃度調整を行い、JISに元づき、コンクリート用練り混ぜ水として使用して産業廃棄物処理費の削減を図りました。具体的には生コンクリートの脱水処理施設及びプラ

ント施設の改造工事と、スラッジ水がたまる水槽に隔壁を増設する工事を行いました。この隔壁により水槽を2つに分け、ひとつはスラッジ水を入れる水槽、もうひとつはスラッジ調整水槽とし、その水槽の底にはスラッジ^{*2} 固形分が固まらないための攪拌機を

設置し、一定時間で攪拌できるようにしています。



*1スラッジ水とは、生コンクリート汚泥水のこと。 *2スラッジとは、生コンクリート汚泥のこと。生コンスラッジは産業廃棄物となる。

事業成果

スラッジ水を再利用して、スラッジも減少

これまでの設備では、スラッジ水を固形化して産業廃棄物処理をしていましたが脱水処理施設の改造、隔壁の増設、プラントを新設したことにより、スラッジ水の濃度を管理してスラッジ水を生コンクリートの練り混ぜ水として再利用することが可能になり、結果スラッジ水が大幅に減少し、旧プラントにおいて日常的に発生していたスラッジ水の脱水処理の稼働が

減少し、産業廃棄物処理量の削減が実現しました。

平成24年度は1年間で244万円かかっていた処理費用が、5年間で500万円程度にまで圧縮削減され、1年間に換算すると約半額程度の処理費用で済むようになりました。産業廃棄物処理場へ運搬するために必要な人件費や運送費も削減できています。



ココがポイント

産業廃棄物処理費が約半額まで削減できた！

旧プラントでは1年間で244万円（5年間だと1220万円！）の産業廃棄物処理費用が掛かっていましたが、**新プラントでスラッジ水を使用したことにより、5年間で500万円程度にまで削減されました。**

処理費が
約半額に！



今後の展望

冬場のスラッジ水の利用に課題 環境への配慮をPR

生コン練り混ぜ時における水の温度は10度以上に保たなければならぬいため、冬場はボイラーを焚いて温めた水を材料に混ぜていますが、スラッジ水から回収した水は屋外に保管しているため、加熱することができません。そのため、水が冷たくなる冬場の12～3月はスラッジ水を使うことができず、スラッジ水全量のうち2～3割は再利用できていないのが現状です。今

後この課題に対する解決策を考え、コストを上げずに全量活用できる体制を整えたいと考えています。

プラントを新設したことにより、スラッジによる産業廃棄物を減らし、環境にやさしく、かつコスト削減が可能な事業運営ができるようになりました。このことは社員への周知はもちろん当社ホームページなどを通じて情報発信を行い、他生コン会社にはない

強みとして今後も発信していきます。

経理
中里 優子

むつアサノコンクリート
株式会社

代表取締役 菊池 薫 ◎創業 昭和46年6月 ◎資本金 2000万円 ◎従業員 27名

〒035-0021 むつ市大字田名部字品ノ木34番地68
TEL.0175-22-2887 FAX.0175-22-7731
URL:<http://mutsusano.co.jp/>





代表取締役専務
金田 憲明



【事業計画名】

鉄骨溶接口ボット導入により女性も働ける 環境を整備し人材の確保と生産能力を向上させる

背景・目的

フル稼働の工場、求められる技術者の育成

当社は、店舗や福祉施設、工場やオフィスビルなどの各種建物の鉄骨の製作を行っている会社です。建築工事に使用する鉄骨を工場で製作しています。当社の技術力および実績は高く評価されており、鉄骨製作の依頼は増加傾向にありますが、工場はフル稼働の状況にあったことから新規受注は断つ

ていました。

また、鉄骨製品の品質と性能は溶接技術に左右されるところが多く、優秀な溶接工を育成する必要がありますが、危険を伴う仕事であることから希望者が少なく、人材確保が難しいという現状がありました。



実施内容

溶接口ボットの導入で生産性・作業効率の向上を目指す

鋼材を溶接によって接合させることができる溶接口ボット（省スペース型鉄骨コア・仕口兼用溶接システム）を導入し、生産性・作業効率の向上を目指し、新規受注を受けられる受注体制の整備を行いました。CADによる設計図面のデータを元に溶接口ボット

に入力し、製品の材料である鋼材をセットすることで、自動で溶接する機械です。30～40センチ四方サイズで、500～600kgまでの重量なら対応できるロボットとなっています。



事業成果

長時間無監視運転が可能。時短・人件費削減も

これまで多くの人員と時間を要していた溶接作業の一部において、溶接口ボットを導入したことにより自動化が図られ、長時間無監視運転が可能となることで生産能力が向上しました。無監視運転ができるので、夕方にセットして作業員は帰宅し、夜間のうちにロボットが溶接を完了させる、という作業ができます。

作業時間の短縮は、コラムコアを1

個製作する際、従来は手作業のため物によっては約4時間をしていましたが、ロボットによる溶接では約1.5時間と大幅に短縮されました。作業員にとって大きな負担となっていた、溶接品質に関わるスラグやスパッタの手作業での除去作業は、溶接口ボットの導入によってスラグやスパッタの量が軽減され、除去作業も楽になりました。

どれくらいの作業量で、どれくらい

の時間がかかるのかの計算が立ちやすいことから、より正確に納期を提示することができるようになりました。生産能力だけでなく、ロボット溶接によって品質の向上もできています。

ココがポイント

作業時間が4時間から1.5時間へ短縮！

手作業では4時間かかっていたコラムコアの製作ですが、溶接口ボットに任せると1.5時間で製作することができます。その間、ロボットにずっと人がついて監視している必要もないため、作業員はほかの作業をすることも可能です。



今後の展望

新規工事の受注拡大と、女性の活躍の場の拡大を目指す

溶接口ボットの導入により、生産能力が向上し、納期等に対して柔軟に対応可能となったこと、高品質な溶接が可能になったことをPRし、受注拡大を図っていきます。建築物は、耐震耐久性が求められ、その躯体となる鉄骨にもより厳しい品質要求が予想されますが、生産能力や品質の面で自信を持って提供できます。

女性や経験の浅い作業員でも作業

データを入力し、熟練者と同じ仕上げを実現できるようになったことから、今後は女性従業員にも溶接のJIS資格取得を目指してもらうよう、積極的に呼びかけたいと考えています。CADのオペレーターとしてデータ作成などで活躍している女性従業員もいるので、引き続きオペレーターを募集し女性の雇用創出を拡充していきます。



**第一建材工業
株式会社**

代表取締役 豊藏 一幸

〒039-1208 三戸郡階上町大字角柄折字東平1-100

TEL.0178-88-5551 FAX.0178-88-5824

URL:<https://www.d1kk.co.jp/>

